

少年少女たち



稽古に励む少年少女たち。元気がとてもよい子たちでした。

●今年3月に北海道で行われた「第22回全国スポーツ少年団剣道交流会」に、本県代表として出場した勝田スポーツ少年団（勝田若葉会）が、団体戦で見事に優勝を果たしました。

●道場の壁には所狭しと輝かしい栄光の足跡を示す賞状が飾られています。若葉会の強さの秘訣はという問いに、「試合に勝つための指導はしていません。とにかく基本を徹底的にやることです。基本を何度も繰り返す事で応用も出来るようになるのです。」と素敵な笑顔で語ってくれたのは、剣道八段、範士である若葉会館長の尾坐原先生。

修文練武 がモットー



「基本が大事」とおっしゃるのは
若葉会館館長の尾坐原 實雄先生
(範士八段 茨城県剣道連盟 会長)

●「剣道は相手がいなければ成り立たないスポーツ。竹刀を交わすうちに相手を認め、友たちを敬うようになります。鍛錬を通じて体を丈夫にし、精神力を強くします。また、剣道をとおして、若葉会では『修文練武』をモットーに健全な発育を目指しています。」

●剣道場に鳴り響く、ぶつかりあう竹刀の音、踏み込む足音、そしてかけ声。子どもたちの打ち込んでいる姿はりりしく、美しい。剣士たちの礼節、きちんとした仕草を見ていると、あらためて日本の伝統のすばらしさを感じました。

★★★剣道の豆知識★★★

●日本剣道発祥の地は関東周辺ではないかという説がある。関東神宮には、神武天皇の紀元元年に国家鎮護の武神として、武甕槌神(たけみかづちのみこと)がまつられている。

●清和帝(480)の代に、国草真人(くになづまびと)という神人が「豊島の太刀(神伝兵法)」という剣法を創始したといわれている。この「豊島の太刀」とは、豊島神伝記によればつぎのように伝えられている。神人国草真人は、己が剣法を後世に伝えるため豊島の高天ヶ原に神壇を設け、朝夕礼拝して、己が剣法の成就大成を祈願した。数年後神靈の教えをうけ、独妙剣一術を悟得した。よってこれを豊島の太刀と称した。

●清和帝時代、豊島は関東に跨る郡会地であった。神宮の神域は広大で、この地域に住む神人・神奴は、時には兵士となり九州方面の沿岸防備にもかりだされた。いわゆる防人である。防人の多くは東国から集められ豊島はこれら防人の集會地であり、豊島は剣のメッカといわれ、防人の武芸訓練場としては好適の地であった。ここで一定の訓練を受けると、防人たちは速く筑紫方面の防備に旅立つのであった。

●豊島の太刀は、時代により上古流・中古流と称され、源頼朝(1147～1199)が日本最古の剣道の流派といわれる神道流を修め伝えたのである。源頼朝は剣術といわれ、38歳におよぶ合戦で生き残り、19度の異例勝負においても不敵と言われている。まさに、「生涯敗れることなし」であったのである。

私たちが日本一です!



今回全国優勝を成し遂げたのは、高島祐太さん(先鋒)、大森隼さん(次鋒)、関根博輝さん(中堅)、平井綾香さん(副将)、川崎頌太さん(大将)の5人。指導者は桑野博雄さん(教士7段)。

これからも頑張ってください!

連絡先/財団法人 若葉会 ☎273-8199